

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078000108		
法人名	医療法人		
事業所名	グループホームじゅうれん		
所在地	福岡県久留米市三潁町西牟田6557-89 (電話) 0942-65-1555		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果確定日	平成23年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、公園の一角にあります。リビングから見える十連公園の景色は、すばらしく地域の皆様の散歩道、憩いの場となっている所でもあります。すばらしい環境の中で鳥のさえずりを聞き四季折々の景色を肌で感じながら散歩コースとして利用しています。地域で過ごしてこられた皆様の今までも、これからも自分らしく【あるがままの生き方】を支援という理念を大切に取り組んでいます。母体が医療法人ということもあり医療連携のサポートも安心出来ます。職員も母体の内部研修、又外部研修にも参加しスキルアップに努めています。認知症対応型通所介護（共用型）も開設してます。住み替えのダメージも少なく馴染みの関係を作りながら地域で暮らす事を大切に地域に根ざしたホームを目指し取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成22年1月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、公園を眼下に池が見下ろせ、森の中に居るような自然が感じられる場所に立地している。また、母体法人である病院を中心に関連した福祉施設が点在し、医療、介護等の連携が可能である。文化祭の開催や地域活動・行事への参加、日常的に行われている近隣の散歩等、事業所の理念である「地域の皆様とあるがままの暮らしを…」を、利用者主体の生活で気負うことなく自然に実践され、利用者が地域の一員として過ごせるよう様々な形での支援に努めている。全職員は、利用者本人の意向や希望を尊重し、本人本位の支援とケアの質の向上に熱意を持ち、一体となって日々取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆様とあるがままの生活を」を理念に上げ、住み慣れた地域、馴染みの人達と共に本人らしい本人の望む生活を送れる様取り組んでいる。	地域密着型の視点を盛り込んだ事業所独自の理念がある。朝礼時等で理念を再確認しながら、言葉かけや態度等、日々のケアの中で理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや清掃、池の水抜き等の地域の活動にも積極的に参加している。定期的に近隣保育園児の訪問があり交流会を行っている。	自治会に加入し、清掃活動や夏祭り等の地域行事へ参加し、また事業所で行う文化祭に地域住民を招待する等、地域との交流に努めている。保育園と交流があり、中学生の体験学習を受け入れる等、日常的に地域との交流がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が参加される運営推進会議において日常生活支援事業や後見人制度の研修を行ったり、尚寿会等への認知症についてのお話に行ったり、中学校の体験学習の受け入れも近い地域で必要とされる要望があれば対応している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活状況や行事取り組みを報告しご意見や要望を頂きサービスの向上に努めている。又地域行事や情報を頂き地域の方々と交流を深め、一員として生活できる様支援している。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者やサービスの現状、外部評価への取り組み状況等を報告している。委員へ避難訓練への参加協力を依頼する等、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当職員、包括支援センター職員に参加して頂き取り組み状況、情報交換を行っている。又研修等の相談、助言を頂きながら、連携を取っている。	行政担当者にサービスや運営等について日頃から報告・相談し、意見や助言をもらい、連携を図っている。また、地域包括支援センターとは、会合等で意見交換の場を持つ等して連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し皆で勉強会を行い理解を深めている。具体的な例を挙げ常に意識しながらお互い確認している。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、内部研修を行っている。テキスト・研修記録がある。居室及び玄関は施錠していない。職員は、利用者の外出傾向を把握し、同法人の病院職員の連携もあり、玄関に設置したチャイムに頼らず、職員間で見守り、声かけ等をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会において理解を深め施設内で見逃されない様になっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の方々にも理解して頂けるよう、運営推進会議において研修を行った。必要に応じ説明、活用出来る様勉強している。	職員は、内部・外部研修に参加して制度について学ぶ機会があり、その他の職員へは伝達研修を行っている。テキスト・研修記録・報告書等がある。利用者・家族等へは、利用開始時に制度について説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得される様に重要事項、契約内容を書面にて説明を行っている。疑問や不安がないか又、「いつでもお尋ね下さい」と説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口について入居時に説明又マニュアルも設けている。ご家族ご利用者様が気軽に話せる様に声掛けをしたリアンケートをとったりし意見や情報を得て、運営に取り組むようにしている。	利用者・家族等の意見は、意見箱を設置し、また、日々のケアの中や家族来訪時等に声かけして聴取するよう努めている。また、年2回、家族会を開催し、アンケートを実施する等して意見・要望・苦情等を積極的に聴取し、外出や食事内容を見直す等、意見や要望を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に意見、提案を聞き代表者へ報告、提案を行っている。又在宅棟会議において検討し広く意見を求め業務に取り組んでいる。	管理者は、日常的に職員の意見や相談等を気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。職員の希望を考慮した勤務体制を整え、外部評価の自己評価を全職員で取り組みサービスを見直す等、意見を反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを感じ長く勤務できる様環境整備に努めている。結婚、出産し職場復帰出来るやすい職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢に関係なく幅広い年代層から採用している。 又職員が、充分能力が発揮出来、生き生きと仕事出来るように配慮している。	職員の採用にあたっては適性を考慮し、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。 また本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員が資格取得できるよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で職員に対し日頃より人権を尊重する意識付けのために研修を行ない教育している。	代表者は、利用者に対する人権の尊重を重んじ、法人内で人権教育を行い、法人全体で人権の啓発活動に取り組んでいる。また、職員は外部研修にも参加し、その他の職員には伝達研修を行っている。人権に関するテキスト・パンフレット・報告書等がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には、毎回全員参加し知識や技術を深めるよう取り組んでいる。法人外の研修にも希望者は、積極的に参加できるよう勤務調整を行ったりとスキルアップに努めている。研修後は、ホーム内で勉強会を行い全員で共有化している。働きながら資格取得出来る様バックアップを行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、久留米市事業者協議会の研修又地域密着型サービス事業所の意見交換会などへ参加し交流を持ち参考にしながら質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族からの要望を聞きながらホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。ゆっくりコミュニケーションをとりながら不安や思いを汲み取れるように関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に御家族の不安・困っている事要望など十分に聴いている。不安・要望を言いやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に当サービス以外の情報説明を行い必要に応じ本当に必要な支援の選択も出来るよう対応も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、買い物など利用者と共に 行い残存能力を活かしながらそれぞれに役割 を持っていただく事で生きがいのある生活を 送れるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	掃除、洗濯、調理、買い物など利用者と共に 行い残存能力を活かしながらそれぞれに役割 を持っていただく事で生きがいのある生活を 送れるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴・趣味などのバックグラウンドをしっかり把握し、地域の方々が殆どの為馴染みの方の訪問・外出と住みなれた地域での生活を支援している。	職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握している。利用者の知人が事業所に来訪する等、利用者が地域や知人等との関係を継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性・相性があるが、職員が介入したり、利用者同士の声掛け気遣いができている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人の関連施設の説明も行いサービス終了後も安心して相談・支援も行っている。在宅復帰された御家族とも本人の状況や経過を聞き支援している方もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より本人の希望を聞き、アセスメントに記録しケアプランに反映できるように努めている。状態により本人の希望が把握できない場合は、家族や他スタッフ主治医の意見を求め、出来るだけ本人本位のケアマネジメントが出来る様努めている。	利用者の表情や行動、しぐさ等から本人の思い等を推し測り、また声かけて希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、アセスメントを参考にする等し、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族より今までの生活歴等を聞き記録している。その後も日々の暮らしの中で思い出した事・感じた事等何気ない会話の中より引き出すことで、それ以前の生活の様子を把握できる様努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人一人をしっかりと様子観察・関わることで日々変化する心身状態を把握し残存能力を認識することに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人ご家族必要な関係者と話し合い、出来る限り、希望を取り入れたプランにしている。モニタリング時にもご家族の意向の再確認を行っている。	介護計画は本人、家族、職員等の意見を反映し、個別具体的に作成している。計画の見直しは3ヶ月に1回に行い、状況の変化により随時見直しをしている。介護計画作成後は家族等へ説明し、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアプラン実施・評価することで気づきが生まれ情報を共有しながら検討し介護計画の見直しの資料としていかしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族と話し合い個別の対応が取れるように支援している。その時々生まれるニーズには、柔軟な支援を行えるよう人数的な配慮も行い対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し状況を説明し区長・民生委員等の意見や助言を頂きながら、地域の祭り、催し物に参加し楽しむ事が出来るように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科・耳鼻咽喉科等通いなれた病院へ家族と受診される利用者もいる。緊急時は、職員が付き添い専門病院への受診も行っている。	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診を支援している。受診時の通院介助や情報伝達の方法について話し合い、合意している。家族等の状況に応じて、臨機応変に支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関りの中で得られた情報や気づきはGH看護師に伝え相談を行い個々の利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族、又病院関係者と情報交換を行い安心して入院治療が出来、退院後の生活も安心して出来るようにサポート支援を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合や、終末期のあり方について説明を行っている。看取りケアの方針、終末期のご家族の意思確認を書面にて行なっている。併設病院、訪問看護と連携についても説明を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用開始時に利用者や家族等へ説明している。利用者本人の状態を見ながら、家族、職員、関係者で話し合い、方針を共有し、支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での勉強会や、救急救命士による法人全体での研修会を定期的に行い、救命措置、AEDの使用方法を身に付けている。吸引器や酸素ポンベの取り扱いも看護師より説明を受け急変時に備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回の防災訓練を行い、緊急時の対応や非難場所の確認を行っている。地域の方々、区長等を通じて協力要請を行っている。	マニュアルを作成し、年2回、消防署及び地域住民の協力を得て、避難訓練や消火訓練を実施している。事業所内に、非常用食料・飲料水・備品等を準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、プライバシーについての研修を行なう事で意識付けを行っている。利用者様が生活していく中で、自尊心を傷つけない様一人ひとり声掛け対応に注意し、接している。	管理者は、職員の言葉かけや対応について、利用者一人ひとりの誇り等を損ねないよう日頃から指導している。内部・外部研修やミーティング時等に、職員の意識向上を図っている。研修記録等がある。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの声掛け傾聴から本人の意思表示、自己表現がしやすい環境作り可能な限り自ら決定出来る様支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、個人のペース時間を大切に対応を行っている。朝食も遅い方も多くその日の状態、ペースにて対応を心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれに気を付け支援している。お化粧されたり髪を染めたり、洋服のコーディネートしたり自分が選び楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った量や好みを把握し、嫌いな食べ物の中には他の品に変更したり味付けを変えたりと工夫している。調理の下ごしらえ、配膳、後片付け等、利用者様と一緒にやっている。	職員と利用者は、一緒に準備や片付けを行っている。職員は、利用者と同じ物と同じテーブルで会話をしながら、さりげなく見守り介助している。献立は、利用者アンケートを実施し、栄養士が作成している。また、食事が楽しみなものになるよう季節の行事食を作る等、配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食べられる量を把握し、配膳する様に努めている。水分量は毎回チェックし個人記録に記入し、不足している場合は、本人の好きな飲み物や、希望を聴く等して必要な摂取量の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ずスタッフが付き添い磨き残しがある場合は介助を行なっている。又、虫歯や治療の必要が生じた時は、歯科医への訪問診療を要請している。義歯使用の方は必要に応じてメンテナンスを要請している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄パターンの把握に努め、声掛け等を行なっている。パット使用を極力控えるようにスタッフ間で、情報伝達を行なっている。又勉強会等でオムツ、リハビリパンツ使用による弊害を理解するように努めている。	職員は、利用者一人ひとりのサインを把握している。排泄チェック表を作成し、おむつやパットの利用回数等を工夫して、排泄の自立を意識したケアに取り組んでいる。失禁の際は、本人の自尊心を傷つけないよう、さりげなく対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力薬物に頼らず、水分補給、飲食物や食べ方の工夫をし便秘の予防に努めている。又食事前には、出来るだけ体を動かしたり、口腔体操等行いスムーズな消化を促す様心がけている。便秘になった場合・自力排便が出来ない時は、腹部を暖めたり、マッサージをしたり、肛門に刺激を与える等して排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	夕食後の入浴を希望される方がいる頃は、遅出スタッフが対応していた。現在は、要望はないが、いつでも応じられる様、遅出スタッフが対応する体制は、整えている。	利用者一人ひとりの希望や状況等に応じて、いつでも入浴できるよう支援をしている。利用者が作製した石鹸等を使用する等し、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々が、思いのまま、居室で過ごせる様必要以上にスタッフが、片付け等行なわず本人の過ごし易い空間が作れる様配慮している。使い慣れた寝具を持ってきていただく事で安心して休めるように、又癒しの時間としてアロマ教室を開催している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬については、ファイルし、内容をいつでも確認できるようにしている。薬の名前・写真・内容・効能・注意事項・副作用等。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において自分の得意とする分野、できる事をする事で役割をもち生きがいを感じられるように支援している。個別対応で本人の楽しみ・気分転換の為希望に添えるよう計画支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ショッピングモールや神社・大仏参拝・足湯等一人ひとりの希望に応じ外出したり、利用者のレベルに合わせ個別対応でも行っている。季節毎に必ず四季折々の花に外出し季節感を感じることを大切にしている。	利用者一人ひとりの希望や体調、天候等を考慮しながら、散歩や買い物、ドライブ、外食等支援している。季節の花見や祭事等、普段は行けないような場所への外出も支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が自己管理されている方もある。必要な物があるときは、買い物に同行し自分で支払い購入できるようにサポートしている。金銭トラブルのある利用者は、本人とその都度残金を確認するよう対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望時に対応している。自分でかけられる利用者は、自由に掛けてもらっている。暑中見舞いや年賀状は、毎年書き家族からの返事を楽しみにしている利用者も多い。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物で、居心地よく過ごせるように又本人らしく過ごせるようにとご家族と相談し配慮している。一人ひとりの価値観を大事にし季節の花を生けたりしている。	共用空間の一角に和室があり、ソファや炬燵で利用者は思いおもいに過ごしている。また、季節の花や書・写真等を飾り、季節感や生活感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、こたつを設置し気の合う利用者同士でゆっくりお茶を飲んだり横になりたいときは、カーテンを閉めプライバシーにも配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾りを持ち込み自宅での雰囲気近づけたり、家族写真や花を飾ったり、一人ひとりの好みに合わせコーディネートし居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室は、利用者馴染みの小物や家具、飾り物、家族写真等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所を確認できるように大きく表示し理解できる様にしている。安全で自立した生活が送れるよう家具の配置なども配慮し車椅子、シルバーカーでの移動も自由にしやすいように配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆様とあるがままの生活を」を理念に上げ、住み慣れた地域、馴染みの人達と共に本人らしい本人の望む生活を送れる様取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	祭りや清掃、池の水抜き等の地域の活動にも積極的に参加している。定期的に近隣保育園児の訪問があり交流会を行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が参加される運営推進会議において日常生活支援事業や後見人制度の研修を行ったり、尚寿会等への認知症についてのお話に行ったり、中学校の体験学習の受け入れも行う地域で必要とされる要望があれば対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活状況や行事取り組みを報告しご意見や要望を頂きサービスの向上に努めている。又地域行事や情報を頂き地域の方々と交流を深め、一員として生活できる様支援している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当職員、包括支援センター職員に参加して頂き取り組み状況、情報交換を行っている。又研修等の相談、助言を頂きながら、連携を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し皆で勉強会を行い理解を深めている。具体的な例を挙げ常に意識しながらお互い確認している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会において理解を深め施設内で見逃されない様になっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の方々にも理解して頂けるよう、運営推進会議において研修を行った。必要に応じ説明、活用出来る様勉強している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得される様に重要事項、契約内容を書面にて説明を行っている。疑問や不安がないか又、「いつでもお尋ね下さい」と説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口について入居時に説明又マニュアルも設けている。ご家族ご利用様が気軽に話せる様に声掛けをしたりアンケートをとったりし意見や情報を得て、運営に取り組むようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に意見、提案を聞き代表者へ報告、提案を行っている。又在宅棟会議において検討し広く意見を求め業務に取り組んでいる。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを感じ長く勤務できる様環境整備に努めている。結婚、出産し職場復帰出来やすい職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢に関係なく幅広い年代層から採用している。 又職員が、充分能力が発揮出来、生き生きと仕事ができるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で職員に対し日頃より人権を尊重する意識付けのために研修を行ない教育している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には、毎回全員参加し知識や技術を深めるよう取り組んでいる。法人外の研修にも希望者は、積極的に参加できるよう勤務調整を行ったりとスキルアップに努めている。研修後は、ホーム内で勉強会を行い全員で共有化している。働きながら資格取得出来る様バックアップを行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、久留米市事業者協議会の研修又地域密着型サービス事業所の意見交換会などへ参加し交流を持ち参考にしながら質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族からの要望を聞きながらホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。ゆっくりコミュニケーションをとりながら不安や思いを汲み取れるように関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に御家族の不安・困っている事要望など十分に聴いている。不安・要望を言いやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に当サービス以外の情報説明を行い必要に応じ本当に必要な支援の選択も出来るよう対応も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、買い物など利用者と共に残り残存能力を活かしながらそれぞれに役割を持っていただく事で生きがいのある生活を送れるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	掃除、洗濯、調理、買い物など利用者と共に残り残存能力を活かしながらそれぞれに役割を持っていただく事で生きがいのある生活を送れるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴・趣味などのバックグラウンドをしっかり把握し、地域の方々が殆どの為馴染みの方の訪問・外出と住みなれた地域での生活を支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性・相性があるが、職員が介入したり、利用者同士の声掛け気遣いができている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人の関連施設の説明も行いサービス終了後も安心して相談・支援も行っている。在宅復帰された御家族とも本人の状況や経過を聞き支援している方もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より本人の希望を聞き、アセスメントに記録しケアプランに反映できるように努めている。状態により本人の希望が把握できない場合は、家族や他スタッフ主治医の意見を求め、出来るだけ本人本位のケアマネジメントが出来る様努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族より今までの生活歴等を聞き記録している。その後も日々の暮らしの中で思い出した事・感じた事等何気ない会話の中より引き出すことで、それ以前の生活の様子を把握できる様努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人一人をしっかりと様子観察・関わることで日々変化する心身状態を把握し残存能力を認識することに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人ご家族必要な関係者と話し合い、出来る限り、希望を取り入れたプランにしている。モニタリング時にもご家族の意向の再確認を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアプラン実施・評価することで気づきが生まれ情報を共有しながら検討し介護計画の見直しの資料としていかしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族と話し合い個別の対応が取れるように支援している。その時々生まれるニーズには、柔軟な支援を行えるよう人数的な配慮も行い対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し状況を説明し区長・民生委員等の意見や助言を頂きながら、地域の祭り、催し物に参加し楽しむ事が出来るように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科・耳鼻咽喉科等通いなれた病院へ家族と受診される利用者もいる。緊急時は、職員が付き添い専門病院への受診も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関りの中で得られた情報や気付きはGH看護師に伝え相談を行い個々の利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族、又病院関係者と情報交換を行い安心して入院治療が出来、退院後の生活も安心して出来るようにサポート支援を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合や、終末期のあり方について説明を行っている。看取りケアの方針、終末期のご家族の意思確認を書面にて行なっている。併設病院、訪問看護と連携についても説明を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での勉強会や、救急救命士による法人全体での研修会を定期的に行い、救命措置、AEDの使用方法を身に付けている。吸引器や酸素ポンベの取り扱いも看護師より説明を受け急変時に備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回の防災訓練を行い、緊急時の対応や非難場所の確認を行っている。地域の方々、区長等を通じて協力要請を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、プライバシーについての研修を行なう事で意識付けを行っている。利用者様が生活していく中で、自尊心を傷つけない様一人ひとり声掛け対応に注意し、接している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの声掛け傾聴から本人の意思表示、自己表現がしやすい環境作り可能な限り自ら決定出来る様支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、個人のペース時間を大切に対応を行っている。朝食も遅い方も多くその日の状態、ペースにて対応を心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれに気を付け支援している。お化粧されたり髪を染めたり、洋服のコーディネートしたり自分が選び楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った量や好みを把握し、嫌いな食べ物の時には他の品に変更したり味付けを変えたりと工夫している。調理の下ごしらえ、配膳、後片付け等、利用者様と一緒にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食べられる量を把握し、配膳する様に努めている。水分量は毎回チェックし個人記録に記入し、不足している場合は、本人の好きな飲み物や、希望を聴く等して必要な摂取量の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ずスタッフが付き添い磨き残しがある場合は介助を行なっている。又、虫歯や治療の必要が生じた時は、歯科医への訪問診療を要請している。義歯使用の方は必要に応じてメンテナンスを要請している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄パターンの把握に努め、声掛け等を行なっている。パット使用を極力控えるように スタッフ間で、情報伝達を行なっている。又勉強会等でオムツ、リハビリパンツ使用による弊害を理解するように努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力薬物に頼らず、水分補給、飲食物や食べ方の工夫をし便秘の予防に努めている。又食事前には、出来るだけ体を動かしたり、口腔体操等行いスムーズな消化を促す様心がけている。便秘になった場合・自力排便が出来ない時は、腹部を暖めたり、マッサージをしたり、肛門に刺激を与える等して排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	夕食後の入浴を希望される方がいる頃は、遅出スタッフが対応していた。現在は、要望はないが、いつでも応じられる様、遅出スタッフが対応する体制は、整えている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々が、思いのまま、居室で過ごせる様必要以上にスタッフが、片付け等行なわず本人の過ごし易い空間が作れる様配慮している。使い慣れた寝具を持ってきていただく事で安心して休めるように、又癒しの時間としてアロマ教室を開催している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬については、ファイルし、内容をいつでも確認できるようにしている。薬の名前・写真・内容・効能・注意事項・副作用等		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において自分の得意とする分野、できる事をする事で役割をもち生きがいを感じられるように支援している。個別対応で本人の楽しみ・気分転換の為希望に添えるよう計画支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ショッピングモールや神社・大仏参拝・足湯等一人ひとりの希望に応じ外出したり、利用者のレベルに合わせ個別対応でも行っている。季節毎に必ず四季折々の花に外出し季節感を感じることを大切にしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が自己管理されている方もある。必要な物があるときは、買い物に同行し自分で支払い購入できるようにサポートしている。金銭トラブルのある利用者は、本人とその都度残金を確認するよう対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望時に対応している。自分でかけられる利用者は、自由に掛けてもらっている。暑中見舞いや年賀状は、毎年書き家族からの返事を楽しみにしている利用者も多い。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物で、居心地よく過ごせるように又本人らしく過ごせるようにとご家族と相談し配慮している。一人ひとりの価値観を大事にし季節の花を生けたりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、こたつを設置し気の合う利用者同士でゆっくりお茶を飲んだり横になりたいときは、カーテンを閉めプライバシーにも配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾りを持ち込み自宅での雰囲気近づけたり、家族写真や花を飾ったり、一人ひとりの好みに合わせコーディネートし居心地よく過ごせるよう配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所を確認できるように大きく表示し理解出きる様にしている。安全で自立した生活が送れるよう家具の配置なども配慮し車椅子、シルバーカーでの移動も自由にしやすいように配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない